

令和5年度第3回 大府市自立支援協議会全体会 議事録

日時	令和6年2月13日(火) 午後3時30分～5時10分
場所	大府市役所全員協議室
出席委員	森本光代、三鬼ルミ子、木全和巳、平野みずえ、鈴木悦彦、平林政明、塚本鋭裕、朝熊清花、杉原直樹、清水晶、辻孝志、大平長治、薄井秀人、大塚良孝、小川緑、山崎千佳、給田章生、飯田真由美、秋津佐智恵、水上和江 事務局：猪飼健祐、小島紳也、夏目誠二、山崎誠、中村浩、川出陽一、鈴木文菜、小清水崇、杉浦英憲 久野幸信、竹内美喜
欠席者	櫻井政仁、中本和則、西原民枝、東千恵子、
傍聴者	2名

敬称略

1 あいさつ

4月に行われる報酬改定の準備で忙しい中、次年度に向けみなさんとしっかり議論できればと思います。

2 議題

(1) 日中支援型共同生活援助の事前評価について

・資料に基づき事務局、設置予定者(株AHP)から説明、質疑

【事前確認事項に対する設置予定者からの説明】

- 1①:利用者は大府市民が中心になると思うが、希望があれば市外の方も受入れも行うので、市民の割合を設けることは考えていない。
- 1②:スタッフの確保状況は、精神科の病院の看護師として15年従事していた伝手で、精神科の経験がある常勤看護師を6名、施設などで経験がある方をパートとして10名ほど確保できている。
- 1(2)①:強度行動障がい受入れに伴う、施設内での身体的・精神的な安全面の確保については、精神科病院の経験看護師が常時いるので、経験に則った事業計画を立てたり、定期的に利用者の安心確保に努めます。夜間は30分に一度くらいの定期巡回を行い、強度行動障がいの利用者が、不安定にならないようする。
- 2(3)①:地域生活支援拠点の実施の予定はないが、職員が整い次第、体制を取れるようにしていきたいと考えている。
- 2(3)②:他のサービスとの連携について、精神科のゆう cocoro クリニックと連携していく。また、共和病院系列のアイリスとも連携していく。
- 3(4)①:食事提供は、病院や福祉事業所などに食事提供している(株)あやめという事業所を利用予定。
- 3(5)①:虐待防止の実施方法は、昨年7月に厚生労働省から出された虐待防止の手引きに則り、研修を行っていく予定。職員の新規採用時など年1回、社内で研修を行う。
- 3(5)②:金銭管理について、事前に定める預り金規定に基づき、適切に管理していきます。金銭管理の依頼があった場合は、預り金保証依頼書を記入してもらい、預かり金を金庫を利用して管理する。利用者の希望ごとにお金を管理していく。

その他①：入居の基準について、ルールを守れない場合は、退去も検討する。

その他②：退去についても、ルールに則り、対応する。

【委員】強度行動障がいに対して、別スペースを設けるなど具体的にどのような支援内容を考えているか。金銭管理は第三者ではなく、AHP 自身が行うのか。

→【設置予定者】強度行動障がいについて、現時点ではまわりに何か置くなど具体的なことは考えていないが、施設など安全面の配慮は徹底する。金銭管理は、自分たちで行う。現在行っている訪問看護事業でも、依頼された場合は、金銭管理を行っている。具体的には、職員同士でのダブルチェックする体制を取っている。今後は、第三者を含めて管理していく。

【委員】夜間の体制について具体的にどのように考えているか。また、受入れの障がい者が多様だが、リスク管理はどのように行う予定か。

→【設置予定者】看護師を各階1人とパート職員1人の計3人を配置する。日中夜間とも有資格者が必ずいる状態にする。リスク管理は、1階は男性利用者、2階は女性利用者とし、支援度が高い人を事務所の近くに配置する予定。

【委員】難病の方も受け入れるとのことだが、どの症状や程度の方（例えば要介護度）をイメージしているのか

→【設置予定者】点滴などの医療行為を行うことは想定していないので、医療行為がない方を受け入れる。要介護度では、4か5程度をイメージしている。

→【委員】要介護度4，5レベルはかなり重度だが、大丈夫か。

→【設置予定者】持ち帰って再度検討します。

【委員】医療的ケアのある方は受け入れないのか。

→喀痰吸引は考えているが、それ以上は考えていない。

【委員】チェックシート(2)⑤の医療的ケア、重症心身障がい、強度行動障がいにチェックがないが、受け入れないというのが方針でよかったか。また、チェックシート(5)②の金銭管理について、利用者が管理にチェックがあり、先ほど事業所が管理すると言っていたが、資料とは相違があるが、どちらが正しいのか。

→【設置予定者】(5)②資料が誤りなので訂正となります。

【委員】回答とチェックシートがずれているが、このチェックシートは誰が作成したのか。

代表が職員と一緒に作ったのではないのか。重度の方を受け入れ、ケアが必要な方だが、夜間は各階一人体制とのことだが、きちんと対応できるのか正直不安になる。支援についてももう少しリアルに考えて欲しい。

→【設置予定者】時間がなく、少しずれてしまった。

【委員】重度の方を受け入れるとのことだが、今の体制では、難しい、不安と思わざるを得ない。

【委員】本冊資料P7の要望事項について、相談支援事業所との連携はどのように考えているか。

→【設置予定者】計画作成を希望する方は、責任をもって計画相談をつけるようにしていきたい。

【事務局】市外の方の計画相談についてはどう考えているか。市外の方が利用される場合は元の市町で関わっていた相談事業所が対応するという考えでいいのか。

→【設置予定者】そう考えている。

(2) 第7期大府市障がい福祉計画(案)、第3期大府市障がい児福祉計画(案)について

・資料に基づき事務局から説明、質疑

【委員】パブリックコメントに対する回答について、P58に対する市の考え方について、大府市障がい者相談支援センターとこども家庭センターについての記載があるが、児童発達支援センターについても記載があった方がいいのではないか。

→【事務局】計画には、児童発達支援センターについて記載があるので、このような回答になったが、記載がある旨も回答に追記します。

(3) 協議会の活動について

・資料に基づき事務局から説明、質疑

【委員】資料 P17 のくらし部会の課題にある支援度の高い方の手厚いくらしの場の不足について、手をつなぐ育成会としては、とても切実な課題だと思っているので次年度からぜひ実施して欲しい。

【委員】相談支援体制について、部会間調整会議でしっかり議論していただきありがたい。相談支援専門員は大変重要なポジションだと思っている。資料にある一人当たり80人という数字はどの程度の負担感なのか。ギリギリだと少し大変ではないかと思う。相談支援専門員が体調崩してしまうと、申し訳なく感じてしまう。

→【事務局】令和2年度は25件/月で考えていたが、障がい児の場合は15件/月で91件/月になり、多いというのが実感としてある。ただ、障がいの種別や本人の状態等により、対応が変わるので、80人は少ないわけではないが、一概に多すぎるとも言えない。

(4) 相談支援事業(障がい者相談支援センター)について

・資料に基づき事務局から説明、質疑

→質疑は特になし

(5) 来年度について

・資料に基づき事務局から説明、質疑

→質疑は特になし

(6) 市の新規事業の実績について

・資料に基づき事務局から説明、質疑

→質疑は特になし

3 その他

特になし